

外皮用殺菌消毒剤

〈貯法〉

保存条件：遮光して保存する。
容器：気密容器

レゾルシン「純生」

Resorcin 「JYUNSEI」

【禁忌】（次の患者には使用しないこと）

1. 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 皮膚結核、真菌性皮膚疾患、単純疱疹、種痘疹、水痘の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
3. 乳幼児〔経皮吸収のおそれがある「副作用の項参照」。〕

【組成・性状】

本品を乾燥したものは定量するとき、レゾルシン（ $C_6H_6O_2$ ）99.0%以上を含む。

本品は白色又は淡赤色の結晶又は粉末で、わずかに特異なおいがあり、味は甘く、後にやや苦い。

水又はエタノール（95）に極めて溶けやすく、ジエチルエーテルに溶けやすい。本品は水酸化ナトリウム試液に溶ける。本品は光又は空気によって徐々に淡赤色となる。

【効能・効果】

殺菌、鎮痒、表皮剥離、角質溶解剤として次の疾患に用いる。脂漏、脂漏性湿疹、被髪部乾癬、尋常性痤瘡、靴擦れ脱毛症

【用法・用量】

2～5%の軟膏、水溶液又はローションとして、適量を1日1～2回塗布する。

【使用上の注意】

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類\頻度	頻度不明
循環器 ^(注1)	頻脈等
消化器 ^(注1)	胃腸障害（悪心等）
中枢神経系 ^(注1)	眩暈、痙れん等
腎臓 ^(注1)	腎障害
血液 ^(注1)	メトヘモグロビン血症
過敏症 ^(注2)	痒痒感、腫脹、水疱等
皮膚 ^(注3)	真菌性・細菌性感染症
その他 ^(注1)	粘液水腫等

(注1) 長期連用・大量使用：経皮吸収によりこのような中毒症状があらわれることがあるので注意すること。

(注2) 異常が認められた場合には使用を中止すること。

(注3) このような症状があらわれた場合には使用を中止し、適切な処置をすること。

2. 適用上の注意

- (1) 眼及び目の周囲には使用しないこと。
- (2) 皮膚が徐々に離れるよう使用回数を調節すること。
- (3) 毛髪に使用する際は、毛髪の石けん分を洗い落としてから使用すること。

【薬効薬理】

レゾルシンは、石炭酸と同じく殺菌作用があるが、作用の強さは石炭酸の1/3である。局所的にはタンパク凝固作用を有し、また角質溶解作用も有する。

【有効成分に関する理化学的知見】

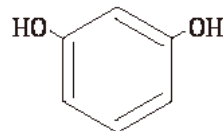
一般名：レゾルシン

USP, BP: Resorcinol

化学名：1,3-Dihydroxybenzene

分子式： $C_6H_6O_2$ ；110.11

構造式：



【取扱い上の注意】

空気中で酸化されて紅色となり、鉄塩の存在でも同様に着色する。水溶液は変色しやすく、紅色から赤色を経て、つぎに褐色に変化する。アルカリの存在では変化は非常に速くなる。

【配合禁忌】

塩化第二鉄液、炭酸水素ナトリウム、カンフル、プロテイン銀、フェノール、ヨウ化物、ヨードチンキ

【包装】

100g

【参考文献】

日本薬局方外医薬品規格、薬事時報社、1997
第八改正日本薬局方解説書、廣川書店、1971

【文献請求先】

小堺製薬株式会社 品質保証室
〒130-0026 東京都墨田区両国 4-36-9
TEL: 03-3631-1495

発売元

日興製薬販売株式会社

東京都千代田区神田紺屋町32

製造販売元

**小堺製薬株式会社**

東京都墨田区両国4-36-9